

令和3年度 5月作物管理指針

あいら伊豆農業協同組合

各作物とも防除履歴の記帳を徹底しましょう。

気温が不安定になっています。園地をまめに確認し、適切な管理に努めましょう。
また、気象情報にも注意しましょう。

柑橘

10a当り600ℓを基準に散布しましょう！

(10a当り青島・甘夏約40本、極早生・早生・ポンカン・不知火約62本の場合)

①病害虫防除

以下の薬剤を満開期から落弁期に、散布しましょう。

対象	農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル 当たり
灰色かび病 そうか病 黒点病	ナリアWDG	2,000倍	14日前	3回以内	50g

<対象品種:はるみ、甘夏等 かいよう病に弱い品種>

以下の薬剤を5月上旬または下旬にはるみ・甘夏等に散布しましょう。

○散布時期:新葉2枚展葉時、または新葉自己剪定後

対象	農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル 当たり
かいよう病	ムッシュボルドーDF	1,000倍	—	—	100g
薬害軽減	クレフノン	200倍	—	—	500g

●灰色かび病

<多発時期> 満開期から落弁期

開花期に雨量が多く、湿度が高くなると大発生。

<症状>

花卉が果実の表面に触れている部分から菌糸が果皮に侵入し、褐色のカサブタのある傷果になります。風スレ果とよく似ており、風スレと思われていた中に灰色かび病の被害果は意外と多くあります。



<防除方法>

- 園内の通風・日照を改善する。
- 園地の排水を良好にする。
- 着花過多を避ける。
- 薬剤散布を行う。

散布時期…満開期から落弁期

●かいよう病

<多発時期> 5月～10月

<症状>

病斑は拡大に伴って中央部から徐々にコルクのような病斑になります。病斑は、葉が大きくなるころには直径2～5mm程度となり、病斑の周縁は幅1～2mmが黄色化します。春葉展開始期から激しく発病すると落葉しますので、この時期の薬剤防除が大切です。



<防除方法>

散布時期…新葉二枚展葉時または新葉自己剪定後

②有葉花摘蕾

隔年結果(一年おきに豊作不作を繰り返す現象)の防止、大玉果抑制のため、有葉花摘蕾を積極的に実施しましょう。

＜対象品種＞ 青島

＜実施時期＞ 満開前

＜実施方法＞ 1樹あたり…300花を目安(5枚以上の有葉花)

※着花量の比較的多い樹を対象に実施

③接木後の管理

●接木テープの処理方法●

①テープ内で芽が2cm位伸びたら芽開けを行います。芽開けを行う位置は、新芽の先端です。穴が大きすぎると芽が乾燥してしまうので注意して下さい。

②芽は一斉に発芽せず、芽の伸びも異なるので、芽開けはこまめに実施しましょう。

●日焼け防止●

日焼け防止剤は塗布してあると思いますが、降雨等で流されてしまった時は、再度塗布しましょう。

ホワイトンパウダー(塗布剤) …水6リットルに2kg

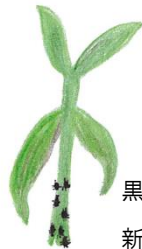
④アブラムシ・エカキムシ

＜多発時期＞

4月頃から増え始めます。アブラムシの場合、5月から10月が発生ピーク、エカキムシは6月から9月がピークになります。

● アブラムシ

ミカンクロアブラムシ



黒色の虫
新葉はしおれる

ユキヤナギアブラムシ



淡緑色、黄色の虫
新葉は巻く

ワタアブラムシ



黄色・緑色の虫
新芽や葉を加害する

● エカキムシ



<防除方法>

高接及び幼木を対象に随時防除

農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水 100リットル当たり
アドマイヤーフロアブル	4,000倍	14日	3回以内	25cc

※アドマイヤーフロアブルは残効14日

○農薬安全使用基準

作物名、適用病害虫、希釈倍率、使用時期、使用回数の遵守を徹底しましょう。

○適用作物名について

- ・かんきつ → 温州みかん と 中晩柑
- ・みかん → 温州みかん のみ

かき

5月は開花期で摘蕾、芽かきの時期になります。

①病害虫防除

以下の薬剤を5月上旬に散布しましょう。

対象	農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル当たり
うどんこ病	ベルコート水和剤	1,000～ 1,500倍	14日前	3回以内	67～100g

※かぶれに注意しましょう。

以下の薬剤を5月中旬に散布しましょう。

対象	農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル当たり
アザミウマ類	コテツフロアブル	2,000～ 4,000倍	14日前	2回以内	25～50cc

※チャノキイロアザミウマは、開花初期から花卉落下の6月までの期間、3回の防除を徹底しましょう。

以下の薬剤を5月下旬に散布しましょう。

対象	農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル当たり
うどんこ病 落葉病	ストロビードライフロアブル	3,000倍	14日前	3回以内	33g

●うどんこ病

<発生時期> 5月上旬～10月下旬

<症状>

葉の表側に直径1mmくらいの薄墨色の斑点が現われる。この斑点は単独もしくは、集まって直径1～2cmくらいの病斑を作ったりする。病斑の裏側には、かすかに白いかびが見られます。



<防除方法>

- 剪定時に症状がでている枝をとり、園外に持ち出し焼却する。
- 育期の薬剤防除は5月中下旬、6月上中旬、8月下旬～9月上旬が適期

期

※ベルコート水和剤による、かぶれに注意しましょう。

※開花初期から花弁落下の6月にかけての期間、3回の防除を徹底しましょう。

●落葉病

<症状>



●チャノキイロアザミウマ

<多発時期> 5～6月が空梅雨で7～8月も雨の少ない年には多発します。

<症状>

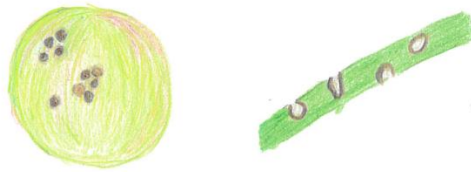


うめ

下旬から収穫期になります。先月同様5月上旬も黒星病の感染期になります。

①黒星病

<症状>



農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水 100リットル当たり
ストロビ・ドライブロアブル	2,000～ 3,000倍	7日前	3回以内	33～50g

くり

5月は新梢伸長期になります。管理は特にありませんが、雑草が発生していたら除草をしましょう。

キウイ

①摘蕾・摘果

側花や奇形花は早めに摘蕾しましょう。又、満開10～20日後に1結果枝当り3果程度になるように摘果しましょう。

摘蕾のPOINT

摘蕾は、2回に分けて行いましょう！！

- ・第1工程 → 開花3～4週間前に不要な花蕾除去
- ・第2工程 → 開花 2週間前に側花蕾除去

②新梢管理

直上枝や強い徒長枝は早めに芽かきをしましょう。

③人工授粉

結実を確実にし、大玉生産には最も重要な作業です。適期に実施しましょう。

④防風対策・新梢対策

優良な結果母枝確保とかいよう病感染予防のため、強風で新梢が折られないよう、誘引、棚付けは必ず行いましょう。

⑤かいよう病

＜防除方法＞

- ・発病樹は早期に伐採し発生源を絶つ必要があります。伐採は園地のキウイフルーツ樹を全て伐採し、残さは適正に処分する必要があります。
- ・発病樹の伐採に用いた器具は70%エタノールで必ず消毒して下さい。

＜農薬散布＞

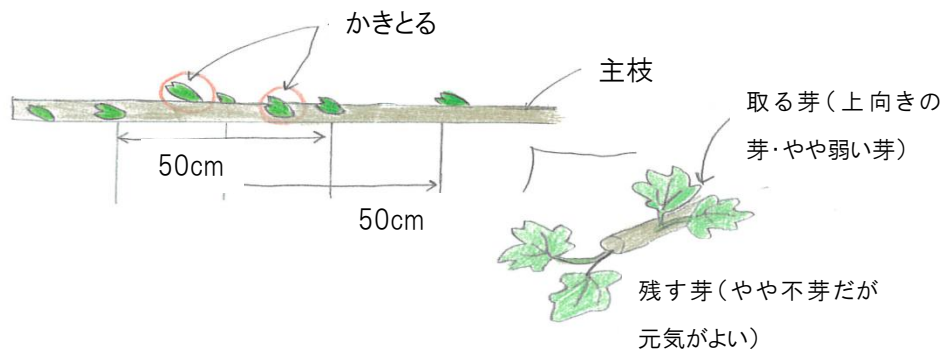
農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル当たり
コサイド3000	2,000倍	収穫後～果実肥大期	—	50g
クレフノン	200倍	—	—	500g

※受粉結実を確認した後に散布すること！

いちじく

①芽かき

結果枝数は10アール当たり2千本程度に芽かきを行いましょう。直上芽、下向き芽を芽かきし、横芽を残しましょう。



- (1)芽が 3～4 葉になったら行いましょう。
- (2)片側 50 cmに 1 芽を残しましょう。
- (3)「横芽」や「やや下芽」を残しましょう。
- (4)遅れて伸びる芽もあるので、2～3 回巡回して実施しましょう。

②園地の整備

降雨等が株元に滞留することがないように、排水対策を講じておきましょう。

③疫病

＜感染原因＞ 土壌中の菌が、雨などによってハネ上がり感染します。敷きワラ等によりハネ上りを防止しましょう。

果



葉



暗緑色、暗紫色の水浸状斑点
後、果実にかびが生じる

暗緑色から黒色に変色し不
整形斑が拡大し落葉する

＜症状＞

葉では、大きな斑点がでます。症状が進行すると落葉します。果実では、白色粉状のカビが生じ腐ります。枝では、黄変して枯れます。

＜防除方法＞

農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水 100 リットル当たり
Z ボルドー	1,000倍	—	—	100g
クレフノン	200倍	—	—	500g

茶

①更新

先月に引き続き一番茶を摘み終わった後に刈るのが良く、浅刈り、深刈り、中切りなどの方法があります。茶樹の状態にあわせて実施しましょう。

＜方法＞

- ・**浅刈り**: 摘採面から 3～5cm の深さに刈る(一番茶摘採後に行う園が多い)。
- ・**深刈り**: 摘採面から 10～20cm の深さで刈る。
- ・**中切り**: 地上 30～50cm の深さで刈る。

②炭そ病・もち病（摘採10日前まで）

農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水 100リットル当たり
ダコニール1000	700～1,000倍	摘採10日前	1回以内	100～142.9cc

③カイガラムシ類（摘採14日前まで）

農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水 100リットル当たり
スプラサイド乳剤40	1,000倍	摘採14日前	1回以内	100cc

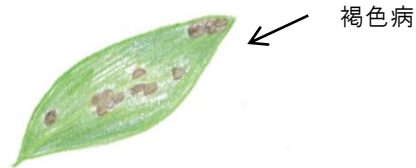
つつじ

①病害虫防除

発生初期に以下の防除を行いましょ。

● 褐斑病 ●

<症状>



・病葉や落葉を処分する。葉に感染する前に薬剤防除を行う。

<使用農薬> ※発生初期

農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水 100リットル当たり
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	発病初期	5回以内	67～100g

● もち病 ●

<症状>

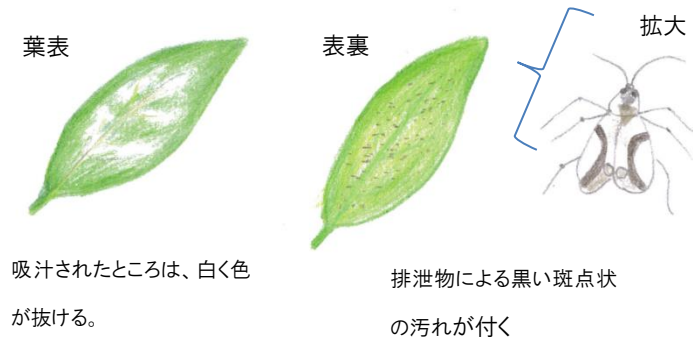


<使用薬剤>

農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水 100リットル当たり
バシタック水和剤75	1,000倍	発病初期	8回以内	100g

● ツツジゲンバイ (4月中旬) ●

<症状>



<使用農薬>

農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水 100 リットル当たり
アドマイヤーフロアブル	2,000倍	発生前	5回以内	50cc

② 施肥

時期	肥料名	10a当たり施肥量
5月上旬	なたね粕	120kg(6袋)

除草と併せて、敷ワラや発芽抑制除草剤を使用し、雑草対策を行いましょう。

農薬名	安全使用基準	10アール当たり
トレファノサイド粒剤 2.5(イネ科雑草)	年2回以内	4kg~5kg

やさいづくり



① 定植までの苗の管理

夏野菜苗は、とても寒さに弱いため、育苗中は日中日光によく当て、夜間は軒下などに移して保温管理に努めて下さい。

4月中旬に購入した苗は、「鉢上げ」(鉢を大きいものに変える)をすることをお勧めします。5月の定植時期まで苗を置くと、苗のポット底から、白く勢いのよい根が飛び出してきました。そうすると、もうこれ以上根が伸びていくことができず、株は生長できなくなります。株を大きく育てるには、ポリポットを大きくして、根を伸びる空間を作ってあげましょう。

更に育成期間が長くなる時は、肥料分が不足気味となり、葉色が悪く(黄緑色っぽく)なってくるので、灌水時に液肥等を混ぜて使用します。

※鉢上げのポイント→鉢上げするときはどうせ大きくなるからと2回りも3回りも大きなサイズのポリポットに植えずに、ちょうど1まわりくらい大きなサイズのものに鉢替えるのが最適です。

② 定植時期

4月・5月上旬は朝晩の冷え込みがまだ強い日があります。植え付け時期については5月のゴールデンウィーク明けに天気予報等で気温を見て、判断して下さい。

購入苗の早植は、生育を阻害します。夏野菜の生育温度は、露地の場合、地温が15℃以上となり、晩霜のおそれなくなった頃が定植適期になります。

水稻

田植の時期になりました。以下の管理を行いましょ。

① 育苗期の管理

1ヶ月以上育苗している場合、苗の色が全体的に黄色くなっている場合は、肥料切れの可能性がります。床を落水し、苗箱1枚あたり窒素分0.5g(硫安の場合は約2.5g)を0.5ℓの水に溶かして灌水しましょ。

② 田植えの方法と管理

夏期の高温対策、根張り向上に向け、田植え前の耕うんは深さ15cmを目標に行いましょ。

植え付け株数は、坪当たり60株から50株(30cm×18~22cm)、植え付け苗数は2から3本、植え付け深さは2~3cmが理想です。

活着するまで深水にして保護しましょ。

③ 雑草防除

除草剤を使用した後は7日間水を張った状態を維持し、適切な水管理に努めましょ。また、除草剤の効果を高めるため、耕運や代かきは丁寧に行い、田面を均平に整えておきましょ。

④施肥

基肥を過剰に行うと、病害虫の多発や倒伏を助長するほか食味の低下に繋がります。品種に合った施肥量を遵守しましょう。特にコシヒカリは倒伏しやすいので、基肥が多くなりすぎないように気をつけましょう。

- ※ ・不明な点は、営農販売課(45-6585)へお問い合わせください。
- ・農薬購入には、印鑑が必要な場合があります。必ずお持ち下さい。
- ・詳しいことは、農協広報誌、ホームページの営農情報
(<http://ja-airaizu.jp/archives/category/nouka>) を参考にして下さい。